



月刊 織本

GEKKAN ORIMOTO

9

2016年9月1日 Vol.265
 発行 医療法人財団 織本病院
 印刷 〒204-0002
 東京都清瀬市旭が丘 1-261
 TEL 042-491-2121
 URL <http://www.orimoto.or.jp/>
 発行人 高木 由利



カワヂシャ

病院で暮らすということ (3) — 夏まつり —



理事長 高木 由利

いくつもの台風を乗り越えて、秋の風に出会える日が多くなりました。これで気候が安定すると嬉しいのですが…

* * *

8月19日（金）は当院2階療養病棟の夏まつりでした。この日を楽しみにしていらっしゃる患者さん達が、病院とは思えない空間を精一杯楽しんで下さったようです。

この夏まつりでいつも感じるのは、患者さんの状態がお一人おひとり異なっても、皆様が一緒になって楽しんで頂けることです。スタッフの細かい心遣いを今夏も味わうことができました。

今年も夏まつりの盆踊りを応援するために外来受診もないのに遠方から駆けつけて下さった患者さん、大きな和太鼓を運んで奏でてくれた外来師長、はっぴとねじりはちまきでお祭りを盛り上げてくれた小内先生、盆踊りに参加してくれたり事前準備をせさせとしてくれた病棟や施設管理課のスタッフ、そして応援に来て下さったご家族と各部署の職員達。たくさんの温かい心を持った方々に囲まれて療養病棟はふくらんでいくのだと思いました。

療養病棟では、毎日血圧測定、脈拍のチェック、体

温測定をしています。必要な方は毎日の体重測定もあります。そして、月1回血液と尿の検査、また必要な時はCTやMRIなど定期的なチェックをしています。更に、少しでも体調が悪くなれば、すぐに治療が開始されます。病棟にはいつも看護師と看護助手がいて、更に様々な診療科の医師が院内にいるため、早期発見、早期治療が行われているのです。

病院で暮らすということは、日々の生活を繰り返すだけではなく、一人ひとりの命を見つめる数多くの職員に見守られているということだと思います。

私は、病院は決して寂しい所ではないことを伝え続けたいと考えています。



夏まつりを終えたスタッフ一同

第57回 日本人間ドック学会 学術大会



医事課 健診・ドック担当 梁取 暁洋

皆さまは「人間ドック」に対して、どのようなイメージをお持ちでしょうか？ 私が受診された方々にお伺いしたところ、「もっと苦しくて、痛い検査がたくさんあるのかと思っていました。」という感想をお持ちの方が多くいらっしゃいました。しかし、現在の人間ドックでは、「苦しい」「痛い」検査は殆どありません。

21世紀は予防医学の時代であり、「予防医学は治療に勝る」とも言われています。それは、今日の医学・医療が日進月歩とはいえ、現在もなお、「治せない病気」がたくさんあるからです。「治せない病気」になる前に、皆さまには是非人間ドックを受診して頂きたいと思っています。

* * *

私は今回初めて、長野県松本市で開催された『第57回 日本人間ドック学会 学術大会』に参加しました。今回の学会では「受診者サービス」に関する演題を中心に、28名の方々の発表を聴講し、当院人間ドックの将来に向けてたくさんのことを学びました。

その中でも特に印象に残った演題は、「けんしん施設における接遇について」でした。医療機関での接遇は命に係わるため商品を扱う企業の接遇とは異なり、その場の

出会いで好印象を与えるだけではなく、信頼関係を築きながら中・長期的なコミュニケーションが必要であるという発表でした。

具体的には、「接遇に重点を置いた受診者様へのアンケートの実施や、職員

に対しての研修などにより、職員のコミュニケーションスキルを高め、受診者様との信頼関係を築いていける体制作りが重要である。このことにより病院側が受診される方に守って頂きたい受診時のルールなどの理解が深まれば、接遇が医療安全にも繋がる。」という内容でした。特に人間ドックでは1日で多くの検査を受けて頂くため、担当スタッフのコミュニケーションスキルの向上や組織力を築いていくことが、受診者様に安全に検査を受けて頂くうえで非常に重要であると感じました。

皆さまは、どのような時に病院を受診されるでしょうか？ 病気になり、何か身体に症状がある時に病院を受診されるという方が多く、日常の健康管理のために病院を利用するという方はまだまだ少ないのが現状です。当院では、人間ドックをより身近なものとして受け入れて頂くため、案内書類や結果表への専門用語の使用をなるべく避け、皆さまに分かり易い文章作成を心掛けています。また、当院の理念の1つ『患者様に満足して頂ける医療を実践する』と、その戦略である『積極的治療の実践』という観点からも、「健康管理に対して無関心な方へどのようにアプローチしていくか」というテーマに、今後も病院職員全員で取り組む必要性を強く感じました。

今回の学会で学んだ事を活かし、今後も担当スタッフ全員が受診者様により



織本病院人間ドック専用ラウンジ



専用個室



満足して頂けるよう努め、更には、健康管理に対して無関心な方も「織本病院で受けてみたい」と思って頂けるような人間ドックを目指します。

スタッフ一同、心を込めて皆さまの健康管理のお手伝いをさせて頂きたいと考えておりますので、是非ご

利用ください。

当院では、ベッド・浴室・トイレなどを完備した個室をご用意し、初めての方も安心して人間ドックを受診して頂けるよう専任スタッフが就き、受診者様をご案内致しております。



笑顔いっぱい!!



～ 夏まつりを終えて～



療養病棟 看護師 古山 富士子

療養病棟が開設され3年目を迎えました。残暑が厳しい中、今年も療養病棟では恒例の夏まつりを開催し、今回私は初めて担当になりました。企画や物作りの作業は得意ではありませんでしたが、療養病棟スタッフ全員と他部署の協力もあり、そして会場の飾りや折り紙などは患者様と一緒に準備し、8月19日に無事、夏まつり当日を迎えることができました。

普段透析で長時間頑張っている患者様、車椅子でしか移動ができない患者様、ベッドから離床できない患者様など、毎日病気と向き合いながら病院生活を送られている患者様に、短時間でも楽しいひと時を過ごして頂けたらという思いで準備をしてきました。前日には、「明日は夏まつりだね!」と楽しみにして下さる患者様も大勢いらっしゃいました。

和太鼓を取り入れた夏ならではの盆踊り、手作りの魚釣り、玉入れ、輪投げなどを行い、会場は患者様やご家族、スタッフ達の笑顔で溢れていました。患者様の笑顔が見たいと思いながら、私達が

たくさんの笑顔を感じました。

織本病院の理念の1つに「患者様と職員、双方が癒される病院にする」とありますが、この夏まつりを通して私は本当に患者様に癒され、心から“ありがとうございます”と言いたいです。

これからも季節ごとの楽しい催し物を考え開催していきたいと思っておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。



第7回 ザ・ショクインズ 秋を愉しむ コンサート



今回は1970年代前後の
グループサウンズを中心に、
懐かしい日本の歌謡曲を
織り交ぜてみました!!

CAST

箕輪 比呂志
菊池 雄二
小内 裕
太田 英憲
稲富 貴己

ルビーの指輪 (寺尾 聡)
さらば恋人 (堺 正章)
勝手にしやがれ (沢田 研二)
ダンシング・オールナイト (もんた&ブラザーズ)
ブルー・シャトウ (ジャッキー吉川とブルー・コメッツ)
亜麻色の髪の乙女 (ヴィレッジ・シンガーズ)
真っ赤な太陽 (美空 ひばり)
初恋 (村下 孝蔵)
他



2016年
10月8日(土) 15:00 開場
15:30 開演
織本病院2F ロビー 入場無料

第180回 腎疾患ゼミナール

腎不全の理解を深めましょう ⑮

24時間蓄尿検査について

腎臓内科：高木 由利
薬局からのワンポイントアドバイス

『腎機能が低下している方が
注意しなければいけない薬について』

薬剤師：外山 加奈

2016年 9月15日(木)

午後1:00～2:00

オリモトホール (織本病院 4F)

参加費無料



第72回 糖尿病教室

合併症にまつわる薬のはなし

～糖尿病を糖尿病だけで
終わらせるために～

薬剤師：境 茂雄

2016年 9月8日(木)

午後3:00～3:30

オリモトホール (織本病院 4F)

予約不要・参加費無料

